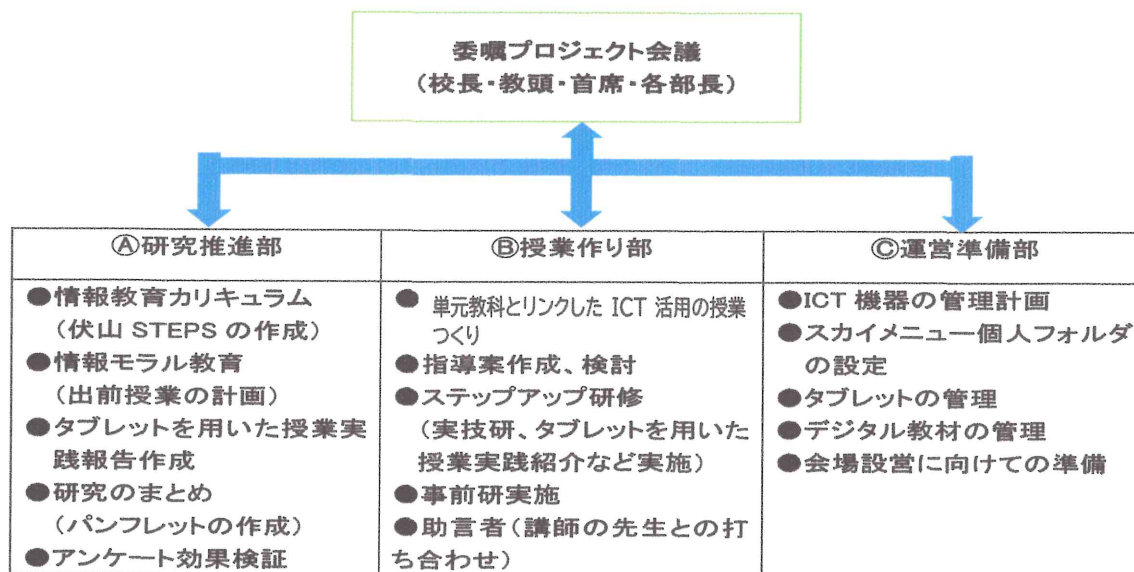


◇毎月第三木曜日の放課後に ABC 部会で話し合い、第四金曜日の放課後に委嘱プロジェクト会議をおこないました。

二年次委嘱発表に向けて（ICT活用した授業づくり）



令和2年度 伏山台小学校委嘱プロジェクト会議年間計画 (案)

令和2年4月1日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月・10月	11月	12月
① 研究推進部	・年間指導計画作成 ・情報モラル教育提案 ⇒カリキュラム化(出前授業ドコモ、パンダイ、ラインなど) ・情報教育カリキュラム<伏山 STEPS>作成 ・冊子の作成計画案作成⇒PDF化 ・アンケート作成処理⇒作成⇒まとめ⇒分析① ・ICT 機器活用授業実践の提案・集約	・全体会・討議会の方法、授業時間など当日の流れ立案◎ ・当日についての提案◎ ・パンフレット作成に向けて編集	・冊子の作成 (QRコード作成)	・一学期に決まった内容を8月の夏季研で提案	・夏季研実施 冊子検討、編集	・情報モラル教育、出前授業実践報告作成 ・各校案内周知(市教委連絡)	・冊子完成(紙媒体印刷) ・配布準備 ・アンケート作成処理⇒作成⇒まとめ⇒分析②	・発表終了後アンケート作成処理⇒まとめ⇒分析③ ・当日感想アンケート等ふりかえり結果まとめ報告
② 授業作り部	・委嘱授業での授業内容(教科・単元)を決定する。(全員) ・アプリの使用方法を検討する。(バーコード) ・授業内容を決定 ・ステップアップ研修企画・立案(パソコン関係) ・夏研修の企画・提案・講師斡旋一回(委嘱授業に関係する)	・本時(スカイメニュー、アーテックロボ)の指導略案を持ち寄って考える ⇒ステップアップ研修で、委嘱授業での指導案検討	教科指導におけるスカイメニューの授業内容を考える。 ⇒研究授業実施学年以外学年の指導略案を1部作製	・ワークシートふりかえり、揭示物作成 ・タブレット活用とスカイメニューの Kategorii 分け ・単元教科・活用方法(タブレットの台数、人数などによる有効の有無の確認) ・カリキュラムに沿った授業を考える ⇒一学期に決まった内容(授業内容・実践)を8月の夏季研で提案	・夏季研 授業内容等提案 実技研実施 ・指導案検討 ・講師斡旋と打ち合わせ(山田先生、豊田先生、西岡先生)	・事前研実施 指導案検討	・当日配布用指導案(PDF化)	
③ 運営準備部	・学校における ICT 機器の管理計画立案 ・タブレット・アーテックロボの管理 ・スカイメニューの個人設定 ・アプリのインストール ・会場設営に向けて(揭示物、案内板などの準備計画)	・タブレット・アーテックロボの管理 ・スカイメニューの個人設定 ・アプリのインストール	・タブレット・アーテックロボの管理 ・スカイメニューの個人設定 ・アプリのインストール	・学校におけるタブレットの管理方法計画 ・タブレット・アーテックロボの管理 ・夏季研職員作業 スカイメニュー、アプリのインストール等タブレットの整備・立案	・学校におけるタブレットの管理方法 R3年度へむけての立案◎ ・タブレット・アーテックロボの管理 ・夏季研職員作業 スカイメニュー、アプリのインストール等タブレットの整備	・会場設営計画案(準備物の発注) ・会場設営に向けて(揭示物、案内板などの作成) ・タブレット・アーテックロボの管理	・タブレット・アーテックロボの管理	・当日会場設営・受付、駐車場等

【コロナ渦における一学期の現状と研究授業実施に向けて】

現状(2020年7月)

- ①3密回避(給食時間・下校時間・使用階段を学年で分ける)
- ②基本的感染症対策(手洗い・消毒・うがい・検温確認)
- ③実施している学校行事(委員会:5、6年交流済み、専科指導、クラブ活動:4~6年)
→様々な教員が関与。他学年との交流を実施。
空間、人が固定のためクラスターや感染者が発生した場合濃厚接触者を特定できる。
- ④来校者
・教育委員会は研究委嘱実施に関して、複数の他校の教員が子どもと接するのはNG
→3密を回避できない場で児童が多数の保護者と関わるのはNG
- ⑤大阪府の方針

A

学校における新型コロナウイルス感染拡大第2波への備え
(学校教育活動と感染拡大防止策との両立)

「分散登校」等の実施イメージ

「大阪モデル」のステージ	グリーン	イエロー	レッド
文科省「地域感染レベル」	← レベル1 → レベル2 → レベル3 →		
授業形態	平常授業	平常授業	分散登校・短縮授業 オンライン授業
教室の人数	通常(40人まで)	通常(40人まで)	20~15人程度
学校教育活動	通常	感染リスクの高い活動(近距離での活動、合唱・管楽器演奏等)について、感染症対策のさらなる徹底	感染リスクの高い活動(近距離での活動、合唱・管楽器演奏等)を実施しない
感染症対策	基本的感染症対策(手洗い、マスクの着用等)	基本的感染症対策(手洗い、マスクの着用等)	基本的感染症対策(手洗い、マスクの着用等) 通学での密を避ける(時差通学等)

B

濃厚接触者の定義とは

※国立感染症研究所感染症疫学センターから出されている定義 (令和2年4月20日以降)

- ① 新型コロナウイルス感染症感染者と接触した日のはじまりを
「発症した日」→「発症した日の2日前」
- ② 濃厚接触と判断する目安を
「2メートル以内の接触」→「1メートル以内かつ15分以上の接触」があった場合



大阪モデル (緑・黄色 ver)	クラスターになりにくい空間 ・8.3m×8.3m ・教室の人数40人以下(密集)	濃厚接触者が発生する可能性	学習形態	共有物 (ICT 機器)	授業中に基本的感染対策 (手洗い・マスク・消毒・距離感など) *マスクに関しては、児童の実態にお維て配慮する。	来校者の心配 ○→来校なし&来校するが対策可能
委嘱授業 ① 11月25日 2年生	児童+見学者人数<40にする。 (2学年で行うため、見学者分散)	児童側・・○ 見学者・・△	① 全体交流	タブレット	○マスク、換気、検温 話し合い活動上での留意点 ・横並び(1m 空ける)→机の隊形 ・授業後に手洗い	○少ない来校者(豊田先生、山田先生、市教委)→検温、密集しない空間作り
委嘱授業 ② 11月25日 5年生	児童+見学者人数<40にする。 (2学年で行うため、見学者分散)	児童側・・○ 見学者・・△	① 少数でのグループ活動(15分以下) ② 全体交流	タブレット アーテック ロボ2.0	○マスク、換気、検温 話し合い活動上での留意点 ・横並び(1m 空ける)→机の隊形 ・授業後に手洗い ・15分ごとに換気を促す	○少ない来校者(豊田先生、山田先生、市教委)→検温、密集しない空間作り
委嘱授業 ③ 12月8日	普通教室 ⇒40人可 図工室で実施すれば可能 何人可?	児童側・・○ 見学者・・△	① 少数でのグループ活動(15分以下) ② 全体交流	タブレット	○マスク、換気、検温 ・横並び(1m 空ける)→机の隊形 ・授業後に手洗い ・15分ごとに換気を促す	○少ない来校者(豊田先生、市教委)→検温、密集しない空間作り

変更点

- ① 参観・・・本校職員と、助言者の先生が参観し、その後討議会をおこなう。
最低限の来校者で、検温、密集しない空間作りをする。
- ② 学習形態がグループ活動メインの4年生と5年生の授業は、教室よりも広い図工室を使用して参観をする。そのため、研究授業の日程を2日にわける。
- ③ 市内の小中学校への発信・・・研究紀要を作成して本校ホームページにアップする。授業の動画記録を教育委員会の先生方に撮影してもらい次年度以降の研修に参画する。